

事務事業マネジメントシート(平成26年度実績と平成27年度計画)

平成28年 2月29日更新

事務事業名		介護保険給付費準備基金積立事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	健康福祉部	課長名	水野 孝春	
	施策	16	高齢者の自立と社会参加の促進			所属課	高齢者支援課	担当者名	米澤 伸仁	
	基本事業	50	高齢者支援体制の充実			所属班	高齢者保険班	(内線)	2146	
予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	介護保険法		成果優先度評価結果	: ⑫
	介護	6	1	1	10480				コスト削減優先度評価結果	: -
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 26年度で終了 <input type="checkbox"/> 26年度から開始					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	介護保険給付費のうち第1号被保険者の負担割合を超える保険料収入があった場合や給付の伸びが見込みより鈍化した場合の剰余金を基金へ積立て、後年度の財政不足時や事業計画見直しの際に取崩し、財政の均衡を保つための当該基金の取崩し等の管理を行うものである。 ※第5期(平成24~26年度)第1号被保険者の負担割合は21%と決定された。 ※第6期(平成27~29年度)第1号被保険者の負担割合は22%と決定された。
(開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	
【業務の流れ】	①保険料に剰余が発生した場合の基金への元金積立事務及び基金管理による利子積立事務。②不足が生じた場合の取り崩し事務
【主な予算費目】	積立金、繰入金
【意見や要望】	特になし
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:	
①手段(主な活動) 26年度実績(26年度に行った主な活動)(DO)		27年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
基金利子積立金の支出(財産収入で受け入れ、積立金で支出する)		26年度と同じ	
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)		(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア	基金積立額	千円	
→ イ	基金繰入金	千円	
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標)	
合志市介護保険事業		(単位)	
		→ ア	介護給付費準備基金年度末現在高
		→ イ	
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標)	
介護保険事業の運営が健全かつ円滑に行える		(単位)	
		→ ア	介護保険認定者の利用率
		→ イ	%
*③成果指標設定の理由と27年度目標値設定の根拠			総トータルコスト
介護保険事業を健全かつ円滑に運営することは、この事務事業の上位基本事業「高齢者支援体制の充実」の意図「高齢者を支援する体制が整い、適切な介護支援を受けられる」に結びつくので、その成果指標「介護保険認定者の利用率」とした。利用率は、全国・県ともに平均80%である。			全体計画
			~ 年度
			0

(2) 各指標・総事業費の推移	単位	24年度	25年度	26年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		実績(決算)	実績(決算)	目標(当初予算)	実績(決算)	目標(当初予算)	予定	見込	見込
① 活動指標	ア	千円	20,087	21,692	100	27,110	100	100	100
	イ	千円	3,989	29,321	58,954	58,954	1	1	1
② 対象指標	ア	千円	87,800	80,172	80,172	48,327	48,327	0	0
	イ								
③ 成果指標	ア	%	82.1	82.1	80	0	80	80	0
	イ								
投資入費量	事業内訳	国庫支出金	千円						
		都道府県支出金	千円						
		地方債	千円			1	1		
		その他	千円						
		繰入金	千円					100	
	(A) 事業費計	一般財源	千円	87					
		(A) 事業費計	千円	87	0	1	0	1	0
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0
	(B) 人件費計	(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0
		正規職員従事人数	人	1	0	1	0	1	0
延べ業務時間		時間	60	0	60	0	60	0	
(B) 人件費計	千円	244	0	239	0	239	239	0	
トータルコスト(A)+(B)	千円	331	0	240	0	240	339	0	

事務事業名	介護保険給付費準備基金積立事業	所属部	健康福祉部	所属課	高齢者支援課
-------	-----------------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部 (SEE)

*原則は26年度の後評価、ただし複数年度事業は26年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①26年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】
	②27年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 介護保険事業を健全かつ円滑に運営することは、この事務事業の上位基本事業「高齢者支援体制の充実」の意図「高齢者を支援する体制が整い、適切な介護支援を受けられる」に結びつくので、その成果指標「介護保険認定者の利用率」とした。利用率は、全国・県ともに平均80%である。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 第5期介護保険事業計画における推計値は、25年度76.0% (1,741人/2,290人×100)、26年度76.6% (1,885人/2,462人×100) であるが、23年度、24年度の実績値は80%を超えている。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある⇒【理由】 (具体的な手段、事務事業) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業はない
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 法に基づき、基金の運用による利子を基金に積み立てるもの。
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 必要最少の業務時間数である。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 公的保険制度である介護保険事業(特別会計)の運営に必要な費用を法に基づき適正に負担している。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 法に基づき市が行うものである。

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

24年度～26年度の第5期介護保険事業計画では、準備基金の取り崩しを80,000千円見込んでいる。これによる月額保険料基準額への影響額を△195円とし、月額保険料基準額を5,200円とされた。24年度の取り崩しはなかったが、当初26年度開始で見込んでいた地域密着型特別養護老人ホームの開設が半年繰り上がるため介護給付費の増加は避けられないことから、25年度29,321千円を取崩し、26年度は全残高の取崩しを予算計上する。しかし、基金が底を付けば第6期の保険料への手当てができないことから保険料の大きな伸びが懸念される。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

<p>(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/>廃止 <input type="checkbox"/>休止 <input type="checkbox"/>目的再設定 <input type="checkbox"/>事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/>事業のやり方改善(有効性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/>事業のやり方改善(公平性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)</p>	<p>(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持																					
	低下																					
<p>(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策</p>																						